

# ガイドライン

## 「コロナの中でもつながる方法」 を活用した区社協、地域活動団体の 活動再開支援

令和2年4月30日作成

電話で

手紙・  
届けもの

集まれなくても  
つながる方法

—“密”を避けながら今できること・これからのこと—

オンラインで

うちで  
できること

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

令和2年9月24日更新版

電話

手紙・  
届けもの

オンライン

コロナの中でも  
つながる方法

うちで  
できること

訪問

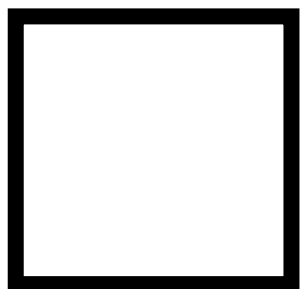
気をつけて  
集まる

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

● 4月30日作成の「集まれなくてもつながる方法」をもとに、7月28日に「コロナの中でもつながる方法」としてバージョンアップしました。今回の9月24日更新版では、資料集(広報誌「大阪の社会福祉」掲載記事)等を一部追加しています。

● 「集まれなくてもつながる方法」と「気をつけて集まる方法」を組み合わせて、今後の活動を考える際の参考資料として活用してください。

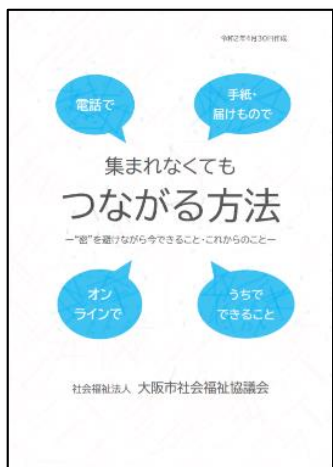
大阪市社会福祉協議会



「こうすべき」「これはダメ」  
という判断基準



自分たちで考え、話し合い、  
決めるための指針



# 「つながる方法」が できるまで

# 中止のお知らせ

日頃は地域社会福祉の向上のため  
ご協力をいただき厚くお礼申し  
会館での3密【密閉空間・密集

令和2(2020)年  
2~3月

「集まらない」



市社協・区社協

— 新型コロナウイルス感染症の影響の中で —

つながりを  
絶やさな  
いために

新型コロナウイルス感染症が  
国内で広がる中、市民の暮らし  
への影響は大きく、地域のサロ  
ン活動や、イベントの中止が相  
次いでいる。

多くの地域では、拡大防止の  
観点から、定期的に実施してい  
る活動を中止、あるいは実施方  
法を変えるなどの対応が取られ  
ている。運営者からは「スタッ  
フの意見を聞いて、やむを得ず

中止にしたが、このような状況  
の時に開けない、居場所が  
…と複雑な思いもある」「再開  
のめどが立たないが、いつも来  
てくれている参加者の気持ちの  
火を消さない方法はないかと悩  
む」と葛藤の声がある。

一方、「日頃の参加者のう  
ち、気になる人については、個  
別に訪問したり、連絡を取るよ  
うにしている」と、見守りの視

点をもって、つ  
ながりを絶やさ  
ない動きも見ら  
れる。

減収や離職、  
閉じこもりがち  
になるなど、生  
活状況が深刻化  
する市民も増加  
している。

生活福祉資金  
をはじめとする  
社協への相談も  
増える中で、市  
社協・区社協と  
して、感染防止  
に留意しながら  
している。

北中津地域高齢者食事サービス活動(東成区)では  
者の会食会を配食にきりかえて訪問・安否確認

発信の一步目  
広報誌(4月号)



「この方法なら  
つながれる」

## 【緊急メッセージ】新型コロナウイルスの感染拡大を受けて

お知らせ 2020/04/16

【人と人のつながりを大切にするボランティアコーディネーターの皆さんへ】

2020年4月16日

認定特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会

新型コロナウイルスにより思い半ばに命を失った方々のご冥福をお祈りするとともに、病床に伏しておられる方、回復期を過ぎしておられる方々にお見舞いを申し上げます。また、医療、保健、福祉関係の方をはじめ、最前線で命を守る活動に全力を尽くして下さっている皆さまに、心からの敬意と感謝を申し上げます。

さて、この度の新型コロナウイルスの流行はとどまるところを知らず、人と人、人と社会を分断し、私たちボランティアコーディネーターが長年積み上げ、育んできた“つながり”も奪い取っています。ボランティアコーディネーターも今この時にふさわしい社会の中での役割を果たさなくてはいけないのではないのでしょうか。

共感 + 希望

# 集まれなくてもつながる方法(令和2年4月)

令和2年4月30日作成

電話で

手紙・  
届けもの

集まれなくても

## つながる方法

—“密”を避けながら今できること・これからのこと—

オン  
ラインで

うちで  
できること

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

### 1 つながりをつ絶やさないために

#### 不安と混乱と戸惑いの中で

新型コロナウイルス感染症が広がっています。大阪府には令和2年4月7日に緊急事態宣言が発出され、外出の自粛、イベントの開催自粛、そして人との接触を減らすことが要請されています。

このような中で、地域福祉活動やボランティア・市民活動に取り組んできた方々は、活動の中止が相次ぎ、戸惑いや葛藤、やり切れなさ、一方で自分自身の健康や暮らしにも不安を覚えながら、複雑な気持ちの中で過ごしていると思います。人が集い、ふれあい、顔を含めて交流することが醍醐味の活動が制限されるという、これまでにない事態。先が読めないうしろ、思いを交わし合うための集まりすら難しい状況にあります。

そうした状況にあっても、つながりが途切れることなく、お互いの暮らしを気かけ合うには、何ができるのか、そういった視点から、さまざまな活動に関わる方(活動者や社会福祉協議会職員など)の参考になるよう、この資料をまとめました。

これから紹介する方法は、決して対面でのやりとりにも限るものではありません。また、感染予防を徹底すればどうしても見守り・つながりが弱まる、その逆も然りといったジレンマを感じることも多いかと思いますが、「こうすればすてすてうまくいく」という方法はありませんが、一呼吸置いて自分を見つめ直しながら、これらでできることを考えるためのヒントにしていれば幸いです。

#### この資料の使い方

- ① さまざまな地域福祉活動、ボランティア・市民活動に取り組む方が、新型コロナウイルス感染症の影響下での活動の方向性や方法を考えるための参考資料として
- ② 社会福祉協議会の職員が、活動者・活動団体の方への助言・支援や、具体的な取組み・情報の収集・発信をするための参考資料として

#### まずは自分の暮らしを第一に

今回の事態は、誰もが当事者であり、自分ごとを感じる問題となっています。多かれ少なかれ、感染のリスクや、自分が広げてしまう側になるかもしれないという不安を感じていることでしょう。仕事や家庭生活への影響があったり、高齢であったり基礎疾患があるなど健康への不安をもっている人はおのここと思います。

活動者の方も、まずは一人の生活者として、自分や家族の暮らしを第一に、健康管理や感染防止に十分留意しながら、決して無理しないことを原則にしましょう。

そのうえでこれまで活動を通してつながってきた人や、同じ地域に住む人へ、今できること、そして今後に向けて必要なことを、無理のないタイミングで、できるところから考えていきましょう。

### 2 集まれなくてもつながる方法

このような状況の中にあっても、3つの密(密閉、密集、密接)を避けながら、「今できることは何か」「形を変えて何か行動できないか」と、つながりを絶やさないための動きを模索する地域や活動団体もあります。そんな市内各地でのさまざまな試みからヒントを得ながら、集まれなくてもつながる方法を、(1)電話、(2)手紙・届けもの、(3)オンライン、(4)うちでできることの4つに整理しました。

活動者から参加者へのアプローチに、また活動者同士でのコミュニケーションを続けるために、できそうなこと・使えるところからぜひ活用してみてください。

配達活動や特に気配りが必要な世帯への見守りなど、対面による訪問を実施する際は、P.5を参照してください。

#### (1) 電話でつながろう

これまで活動に参加していた方の安否確認や、メンバー間のコミュニケーションのために、日頃から使い慣れている電話は有効です。特別な用意はなくても会話することで、閉じこもりがちで生活の中で「誰かが気にかけてくれる」「つながっている」という気持ちが生じるものです。

特にこれまで見守りや、居場所づくりの活動を通して、気にかけていた人(一人暮らしの人など)についての情報を改めて整理して、個別に連絡することは、お互いの安心感や、何かあったときに SOS を出せる関係につながるでしょう。その中で、気になることがあった場合は、区社会福祉協議会、地域包括支援センターなどの相談機関や、場合によっては行政・医療機関などに相談しましょう。

#### (2) 手紙・届けものつながろう

活動団体に関するおたより(ニュースレター)、会えなくなっている参加者へのメッセージカードをつくる動きもあります。メッセージを書くにしても、一定のフォーマットをつくるなど負担にならないようにして、そこに一言メッセージを添えるのもよいでしょう。衛生物品などを組み合わせて配付することも考えられます。

接触しないために郵送するほか、活動者の運動を兼ねて歩きながら戸別にポストインすることもできます。玄関先や家の様子から暮らしがうかがうこともできるでしょう。

手紙や届けものは、一方通行になってしまう場合もあるので、前後に電話連絡を併用したり、ポストインする際、インターホン越しに一言交わすこともできます。また、往復はがきの送付(あるいは返信用紙を含めたポストイン)を取り入れることで、返信によって安否確認や近況報告を共有するといった、新たな試みも考えられるかもしれません。

#### (3) オンラインでつながろう

ICT ツールを使うことで、会わずでもできるコミュニケーションの幅が広がります。メー

「つながり方の選択肢を増やす」

# コロナの中でもつながる方法(7月改訂・9月更新)

令和2年9月24日更新版

電話

手紙・  
届けもの

オンライン

## コロナの中でも つながる方法

うちで  
できること

訪問

気をつけて  
集まる

社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

- 4月30日作成の「集まれなくてもつながる方法」をもとに、7月28日に「コロナの中でもつながる方法」としてバージョンアップしました。今回の9月24日更新版では、資料集(広報誌「大阪の社会福祉」掲載記事)等を一部追加しています。
- 「集まれなくてもつながる方法」と「気をつけながら集まる方法」を組み合わせながら、今後の活動を考える際の参考資料として活用してください。

広報誌「大阪の社会福祉」 令和2年7月発行号(782号) 3面

## 地域でつながり続けるために

— 高齢者への配食活動を通して見えてきたこと —

「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」の一環として、地域のボランティアの方々の協力のもと実施してきた配食活動の第1期(5月下旬～6月)が終了した。

取組みの様子と、各区・地域から届いた声を紹介する。(各区社協からの集約内容をもとに一部抜粋・要約)

外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業(大阪市社協・各区社協)

- ① 一人暮らし高齢者・みんな食堂等への配食
- ② 相談窓口情報と啓発物資の配付
- ③ 民生委員・児童委員の協力による電話・訪問等による安否確認
- ④ 各区の実情に応じた区社協独自の取組み

※この事業は大阪府の交付金を受けて実施しています



ボランティアから顔を合わせて手渡し(港区 八幡屋地域)

### 久々の再会で「つながり」を実感

- 「元気にされているか」「バランスのよい食事はとれているか」とボランティアも心配されていた様子。対象者からは、会館にお礼の電話があったり、涙を流して喜ばれた方もおられ、普段の活動の大切さを改めて実感した。
- 「自粛中、誰ともお話をしていなかったのでも、ボランティアと会話できて、元気が出た」との声があった。

### 見守りのまなざしで変化に気づく

- 普段は会食会をしているが、配食をしたことで玄米の様子から生活の様子に気づくことができ、見守り意識が高まる機会となった。

### 活動を通してみえた地域の力

- ボランティアからは「早く活動したかった」「うずうずしていた」などの声があった。
- 地域で独自にマスクやメッセージ付きカードを準備しているところもあり、潜在的な力を感じた。



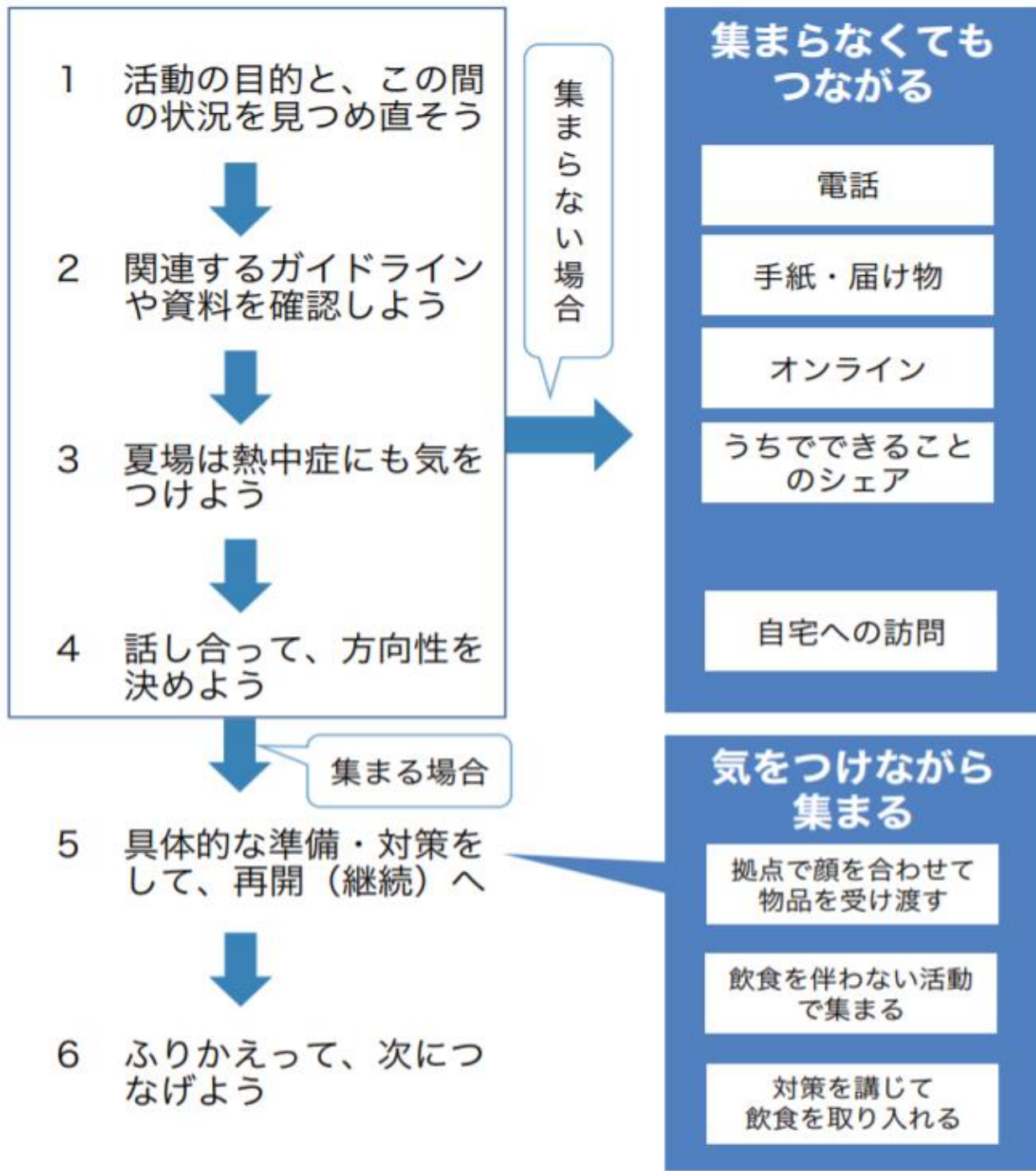
地域の会館内で準備して配達へ(東淀川区 下新庄地域)



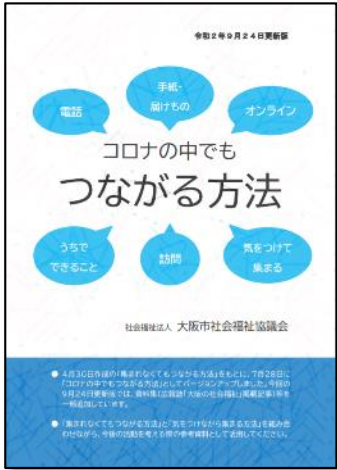
地域の会館でテイクアウト方式により実施(生野区 林寺地域)

### これからの活動展開に向けて

- ボランティアからは「このような取組みがあって本当によかった」との声も。これがきっかけで、6月以降に地域の取組みとして配食を実施することを検討されている地域もある。
- 準備・調整期間も限られた中で、地域のボランティアの方々の結束を感じた。配食できたことを誇りに感じ、活動再開に向けて意欲の高まりにつながった。



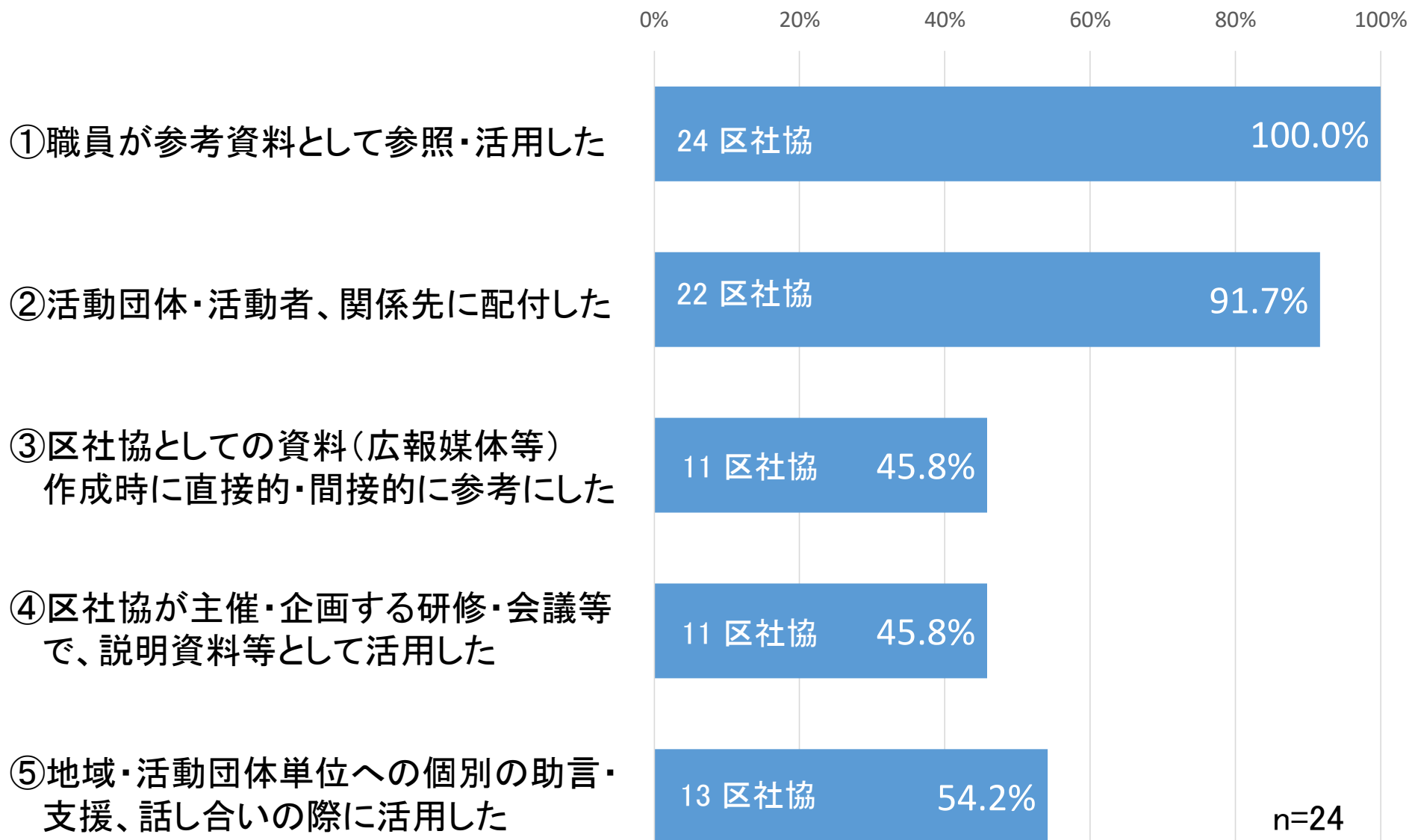




# 「つながる方法」が できてから

令和3(2021)年  
3月 調査実施

# 「集まれなくてもつながる方法」「コロナの中でもつながる方法」の 大阪市内各区社協による活用場面(複数選択)



# 冊子の効果・反応

- ・活動再開のきっかけに
- ・区内の活動団体の集まりで活用
- ・社会福祉法人・施設からの声

活動再開の特効薬にはならないけど  
気づき・話し合いを促すツールになる

# 冊子から派生した動き

投票

ホストが投票結果を共有しています

1. 今回のテーマで、感染症の理解に加えて、いま特に悩んでいること、気になっていることは？  
(2つまで選択) (複数選択)

1 【気持ち面】活動への気持ちやモチベーションの維持・向上の方策	52%
2 【活動方法】感染対策をして活動を具体的に継続・再開するための工夫やしがい	48%
3 【社協のスタンス】意見を求められたり助言・提案する際の区社協としての判断基準・考え方	48%
4 【行政・機関連携】区役所をはじめとする関係機関との連携	4%
5 【参加者・対象者の課題】参加者・対象者の状況把握が困難であること、孤立や心身状態の低下のおそれ	44%

閉じる

## ◀ 感染症の知識・対策を学ぶ

第2期  
大阪市地域福祉活動推進計画  
令和3年度～令和5年度

令和3年3月  
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

6 参画・協働のための  
地域福祉ガイドブック

コロナでどうする？  
居場所・サロン活動

大阪市地域福祉活動推進委員会  
（代表理事 大塚博之、代表理事 藤田和子）



「地域福祉活動推進計画」  
(3年計画)の作成に反映 ▶

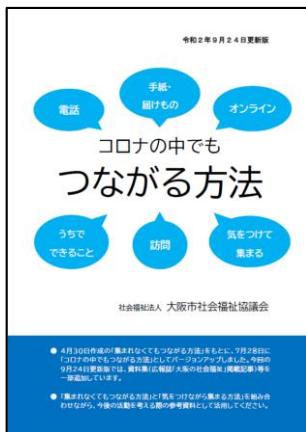
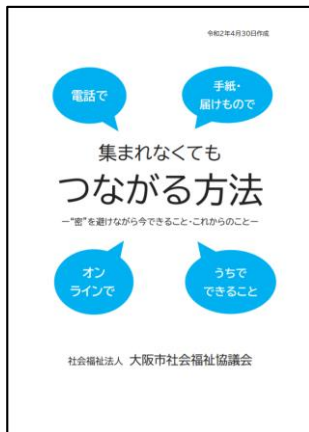
冊子を一定の到達点として、次の展開へ

# 実践を通しての気づき

- ① 活動は止まっても、話し合いは止めない
- ② ここぞの対面+ICTでもつながる
- ③ 再開支援の一発逆転策はない



- ・ 少し先を見て計画、実践、ふりかえりを重ねる
- ・ 発想やアイデアは全国規模で活かし合う



# 「つながる方法」のダウンロードはこちらから



<https://www.osaka-sishakyo.jp/20200728/>

# ご視聴ありがとうございました

## 発信 あなたのそばの福祉のとりのくみ

【平野区】「LINE」を活用した「見守り活動」プレ実施中!!

2021/04/08

新型コロナウイルス感染症の影響により、人が顔を合わせて、ふれあう機会が制限されています。令和元年から有償による「たすけあい活動の会」を発足し、活動を展開している平野区瓜破北地域では、コロナ禍での見守り活動において、対面での活動を継続する一方で、オンラインを活用した「見守り活動」ができないかと検討していました。

瓜破北地域福祉活動コーディネーターの生方子さんは、新型コロナウイルス感染症前からコミュニケーションツール「LINE」を使用し、「お元気ですか?」「お変わりありませんか?」と5名の方とメッセージを送っていました。そのうちのひとり地域にお住まいのひとり暮らしの女性と、2月4日、試験的にビデオ通話で見守り活動を実施しました。

「ビデオ通話は初めてだった」「娘や孫ともやってみたい」と、その女性は感想を話します。お孫さんにすめられ、スマートフォンを購入。ご家族と毎日「おはよう」「おやすみ」などをLINEでやりとりしており、返事が遅くなれば心配してすぐに娘さんが家まで来てくれるそうです。



▲はじめてのビデオ通話もスムーズに

生方さんは、「今まではメッセージを送りあうのみだったが、今回顔をしながらお話ができ、嬉しかった。今後オンラインでの見守り活動を継続し、特にひとり暮らしの方とつながりをつくれたらと思う。そのためには、LINEの機能も活用し、より多く高齢者の生活に「LINE」を活用して、安心・安全に生活してほしい」と話しています。

# 大阪市内の区・地域の取組みの最新情報ははこちらから



<https://www.osaka-sishakyo.jp/fukusinotorikumi/>

大阪市社会福祉協議会 地域福祉課

TEL 06-6765-5606 E-mail [fukusi@osaka-sishakyo.jp](mailto:fukusi@osaka-sishakyo.jp)